

【小学校単元到達度評価問題における課題をもとにした改善のポイント】

「割合」の学習を振り返り、子供たちに確実に力を付ける

5年生の単元到達度評価問題（1月）の結果から、継続して「割合」の問題に課題があることが分かりました。今月は、過去のお役立ち情報（平成29年1月号）を再度、お配りします。「割合」の指導の振り返りに御活用ください。また、必要に応じて補充学習を行い、次年度につなげていただけたらと思います。

つまずきの要因として想定できるのは…

- 問題文の中から「もとにする量」と「比べる量」が何かを捉えにくい！ →基準は何かを判断する力
- 問題場面を、関係を表す図や数直線などに表すことが難しい！ →数量関係を算数的に表現する力



「もとにする量（基準量）」や「比べる量（比較量）」を確実につかむことができる発問や支援のポイントは何かな？

＜問題＞ 5年生 啓林館（チャレンジ問題）P175より  
あゆみさんのクラスでアンケートをとったところ、算数が好きと答えた人は21人いました。  
これは、クラス全体の人数の60%にあたるそうです。あゆみさんのクラスの人数は何人ですか。

ポイント① 問題場面を把握する活動を位置付ける

- ①問題を読む時に、量の感覚や大小関係を丁寧に扱う。
- ②問題文で聞かれていることを発問で整理する。「聞かれていることは何かな？」
- ③「もとにする量」と「比べる量」を示す言葉に、それぞれ色を変えて、アンダーラインを引くようにアドバイスする。

☆割合の定義をもとに、数量関係を把握  
「割合」とは、比べる量が、もとにする量の何倍にあたるかを表した数です。  
 $21人 = 全体の数 \times 0.6$

☆「もとにする量」に関連するキーワードに着目  
「定員の」「もとの(値段)」「～のうち」「全部で〇〇mです。このうち」  
☆基準が何かを意識できるように系統的に指導  
(例)数と計算:かけ算の学習 4(基準)の3倍 量と測定:単位の学習で何を「もとになる大きさ=1」にするか、測りたい量はそのいくつ分(何倍)にあたるのか。

ココがポイント！！



ポイント② もとにする量は何か考え、問題場面を関係図で確認する

- ④「もとにする量」と「比べる量」を話し合いで整理する。
- ⑤問題場面を関係図に整理しながら確認する。

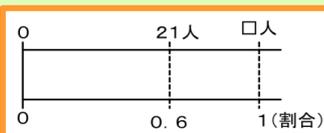


「全体の人数」の60%が、「算数が好き！」だから「もとにする量」を全体の人数にしたらいいと思います。

60%は割合を整数で表したものだから、小数で表すと0.6になります。

ポイント③ 数量関係を表す数直線や式をかき、式や図の意味を考え、学び合う

- ⑥問題場面を数直線や式で表すようにアドバイスする。
- ⑦式や図の意味を話し合いで整理する。



$$\square \times 0.6 = 21$$

$$\square = 21 \div 0.6$$

$$\square = 35$$

全体の人数を□として、0.6倍が21人と考えよう。

この図の「1」のところを求めればよいと思います。

◇数直線で、「もとにする量」を「1」ととらえ、図や式の表す意味を話し合いで整理します。

◇「小数÷小数」で1あたりの数量を求めた学習を振り返ることも有効です。

0.6倍なのに、なぜ、わり算をするのですか？図を使って説明できますか？

なぜ、□がクラス全体の人数になりますか？問題文のどこから分かりますか？

ねらいに合った適用問題で評価

◇何よりもこの時間を確保する授業構成が大切です。

＜評価のポイント＞

- ①一人一人が自分の力で問題を解くことができているかを見極め
- ②一人でできていない場合、何につまずいているかを見極め
- ③一人で十分にできている場合、子供をさらに伸ばす支援